

考察

→ 道路サポーターの加入者団体数は、年々増加している。

河川愛護団体は地域の皆さんによる河川の清掃や除草を行うボランティア団体です。  
河川の清掃や環境整備などをお手伝いしてくださる方を募集しています。

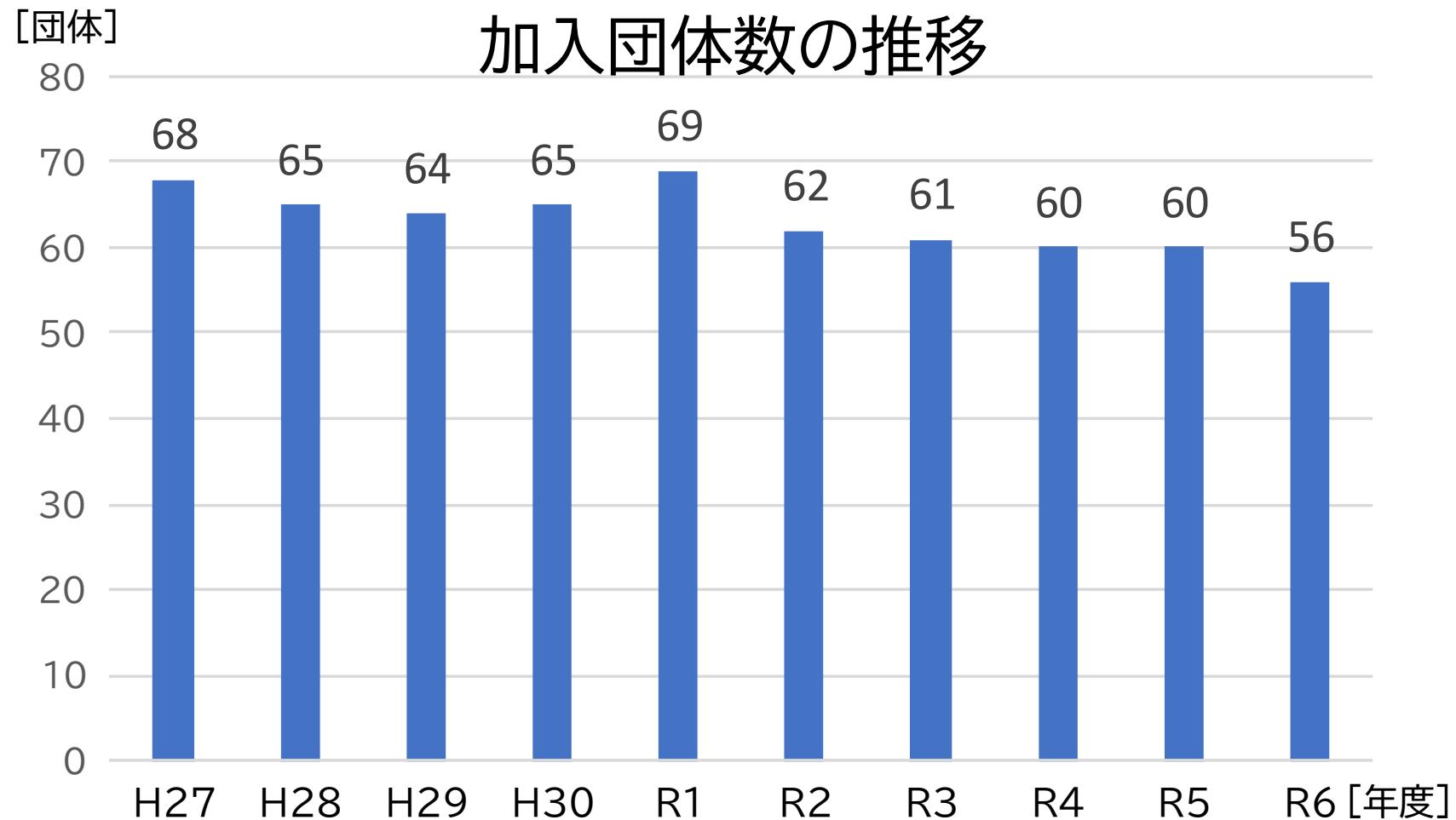
#### 活動内容

- 河川の清掃や除草などの美化活動
- 河川愛護思想の啓発普及を行う



#### 支援制度(河川愛護団体補助金)

河川清掃等の活動を行う団体(少なくとも10名以上)に対して、活動延長に応じた「補助金」を交付します。



考察

→ 河川愛護団体の加入者団体数は、近年（R1以降）、減少している。

公園愛護会は、少なくとも10名程度の地域の皆さんまで組織されるボランティア団体です。

## 制度紹介

公園愛護会の制度についてご紹介します。

### 1. 活動内容

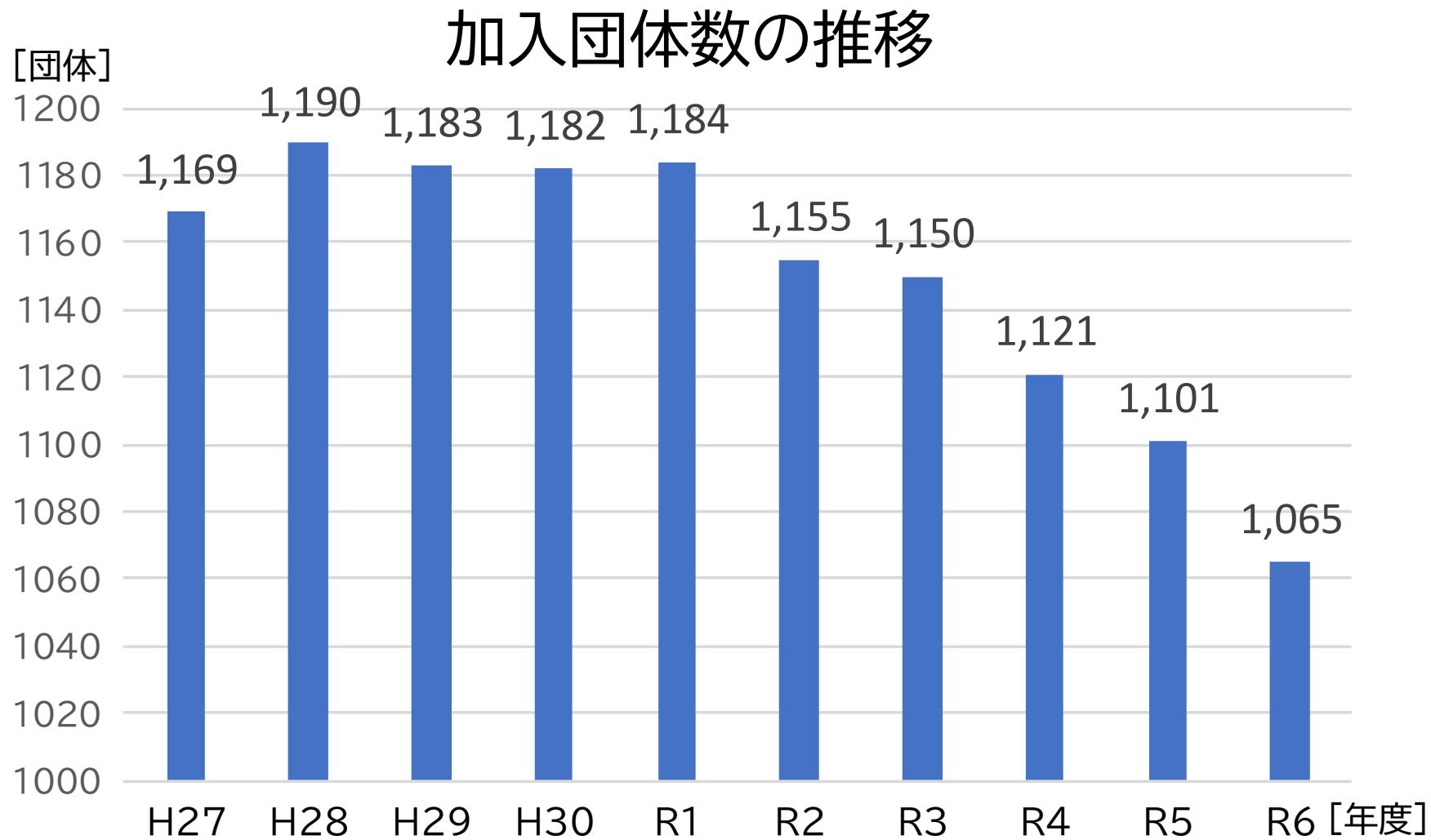
- ・公園の清掃や除草などの美化活動
- ・公園を利用した市民花壇づくり
- ・公園樹の簡単な剪定
- ・公園施設の点検や禁止行為の連絡
- ・公園利用者のマナー啓発



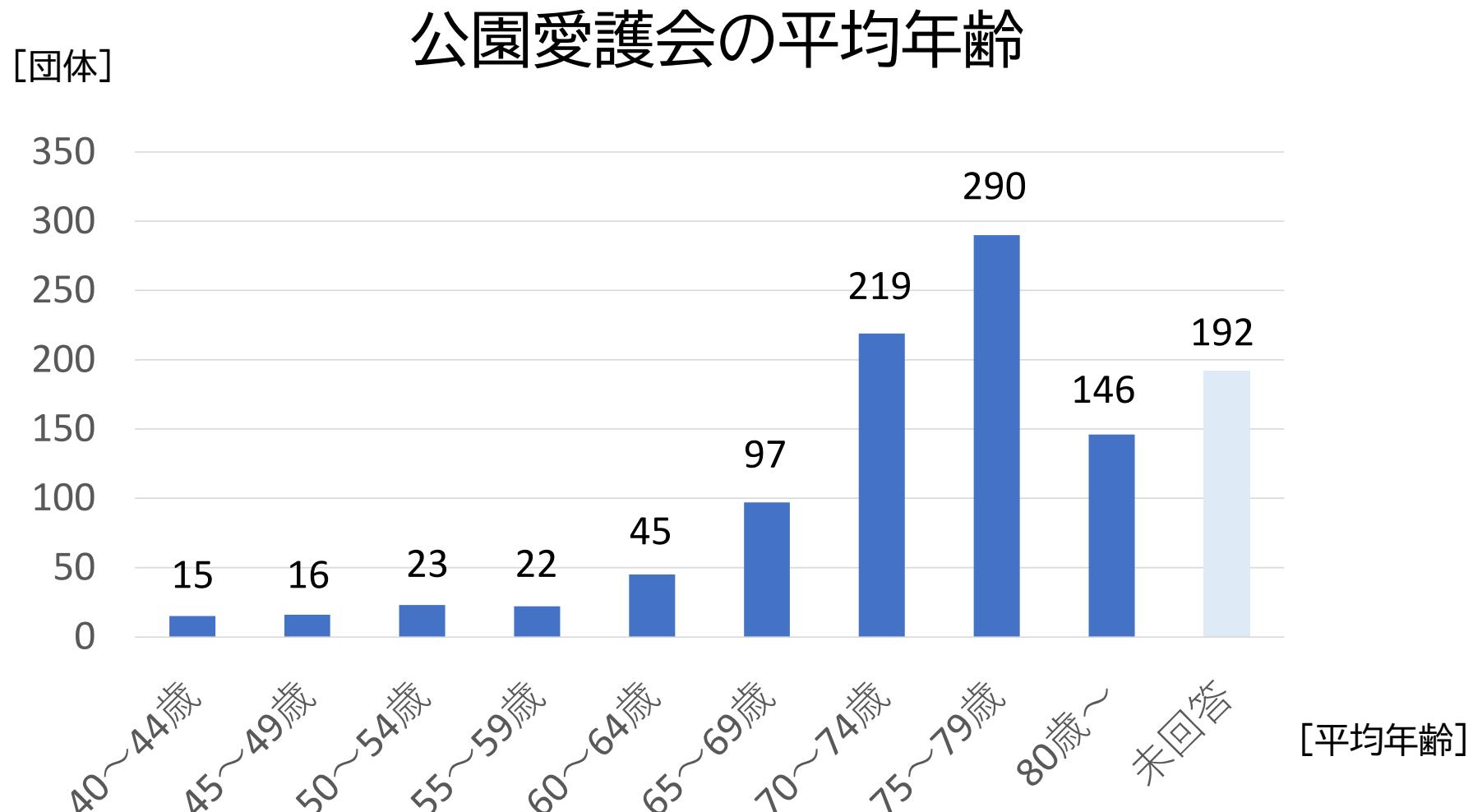
その他「地域」及び「区」に愛護会の連合会組織を結成し、市との連絡調整等を行っています。

### 2. 支援内容

皆さまの愛護活動に対して、活動面積に応じた「助成金」を交付しています。



**考察** → 公園愛護会の加入者団体数は、H28を境に、減少している。



考察

→ 公園愛護会員は高齢者が86%を占める。

【定義】人が管理する場所において、その意に反して繁茂する草本類

**考察** → 「除草剤の創製研究からみた雑草学と雑草管理」（2002萩本）には、雑草の定義について「人類の使用する土地に発生して人類に損害を与える植物」のほか、いくつか紹介されているが、一方で「日本の植物学の父」の呼ばれた牧野富太郎博士（1862－1957）は「雑草という植物は存在しない」という言葉を残している。

例えば、「チガヤ」は、道路や畠では代表的な雑草であるが、河川では、生物多様性損失防止の観点からも、在来種として法面の浸食防止や緑化のために用いられている。

こうしたことから、ここでは「都市インフラの機能と役割の阻害要因」となることを前提に、上記のように定義する。

## II 雜草の情報

### (2) 種類

### 1. 種類

#### 【種類】「雑草管理者のための雑草の識別と調査の基礎」2018浅井から抜粋

表 1 日本の主要な畠地、緑地の雑草とその類別

分類群	生長			生長 多年生	地上部大型
	一年生 草生	冬生	草立型		
北日本 イネ科	アキメヒシバ <i>Digitaria</i>				コヌカグリ <i>Agrastis</i>
	アキノエノコログリ <i>Setaria</i>				シバムギ <i>Elytrigia</i>
広葉 双子葉 各井	ナギナタコウジュ <sup>1</sup> <i>Richardia</i>			ジンバリ類 <sup>1</sup> <i>Ranunculus</i>	ハチジョウナ <sup>1</sup> <i>Sonchus</i>
					エゾノキツネアザミ <sup>1</sup> <i>Drepanis</i>
					キレハイヌガラシ <i>Ranunculus</i>
					ヒメスイバ <sup>1</sup> <i>Ranunculus</i>
離井	オオツメクサ <sup>1</sup> <i>Sparganium</i>				
	タニソバ <sup>1</sup> <i>Persicaria</i>				
	ソバカラズラ <sup>1</sup> <i>Folium</i>				
関東以西 イネ科 ほぼ全国	メヒシバ <i>Digitaria</i>	スズメノカタビラ <i>Poa</i>	イヌムギ <i>Bromus</i>	キシュウスズメノヒエ <i>Paspalum</i>	チガヤ <i>Imperata</i>
	イヌビエ <i>Leucanthemum</i>	ホズミムギ <i>Lolium</i>	カモジグサ <i>Elymus</i>		セイバンモロコシ <i>Sorghum</i>
	オヒシバ <i>Eclipta</i>	スズメノテッポウ <i>Alopecurus</i>	ススキ <i>Machameria</i>		ヨシ <i>Phragmites</i>
	エノコログサ <i>Setaria</i>	カズノコグサ <i>Beckmannia</i>	シマズスメノヒエ <i>Paspalum</i>		
	アセバヤ <sup>1</sup> <i>Leptochloa</i>	カラスムギ <i>Avena</i>	チカラシバ <i>Panicum</i>		
			メリケンカルカヤ <i>Andropogon</i>		
カヤツリグリ科	カヤツリグリ、コゴメガヤツリ <i>Cyperus</i>				ハマスゲ、ショクヨウガヤツリ <i>Cyperus</i>
					ヒメクサ類 <i>Cyperus</i>
広葉 單子葉	ツユクサ <i>Carex</i>		カラスビシヤク <i>Pimelia</i>		
双子葉 各井	イヌオオズキ類 <sup>1</sup> <i>Solanum</i>	ハハコグサ <sup>1</sup> <i>Grapholita</i>	タンポポ類 <sup>1</sup> <i>Taraxacum</i>	ヘクソカズラ <sup>1</sup> <i>Pandorea</i>	ハルジオン <sup>1</sup> <i>Englera</i>
	アメリカセンブングサ <sup>1</sup> <i>Bidens</i>	ヒメジョオン <sup>1</sup> <i>Stenactis</i>	オオバコ <sup>1</sup> <i>Polygonum</i>		セイタカアワダチソウ <sup>1</sup> <i>Solidago</i>
	ブタクサ <sup>1</sup> <i>Ambrosia</i>	ヒメムカシヨモギ、オオアラノギク <sup>1</sup> <i>Cynara</i>			ヨモギ <sup>1</sup> <i>Artemisia</i>
	トキソウ <sup>1</sup> <i>Carpobrotus</i>	ノケン類 <sup>1</sup> <i>Sonchus</i>			ヨメナ <sup>1</sup> <i>Aster</i>
	帰化アサガオ類 <sup>1</sup> <i>Ipomoea</i>	ノボロギク <sup>1</sup> <i>Senecio</i>			ガガイモ <sup>1</sup> <i>Ipomoea</i>
	タカラブロウ類 <sup>1</sup> <i>Eclipta</i>	オオイヌノフグリ <sup>1</sup> <i>Veronica</i>			コヒルガオ、ヒルガオ <sup>1</sup> <i>Calystegia</i>
		ホトケノリ <sup>1</sup> <i>Lamium</i>			ワルナスビ <sup>1</sup> <i>Solanum</i>
		ヤエムグラ <i>Galium</i>			
離井	イヌタデ、ハルタデ、オオイヌタデ <sup>1</sup> <i>Persicaria</i>	リズナ <sup>1</sup> <i>Cuscuta</i>	イヌガラシ <sup>1</sup> <i>Rubus</i>	シロツメクリ <sup>1</sup> <i>Trifolium</i>	イタドリ <sup>1</sup> <i>Rumex</i>
	ミチヤナギ <sup>1</sup> <i>Polygonum</i>	タネツヅリバナ <sup>1</sup> <i>Cardamine</i>	ギンピシ類、スイバ <sup>1</sup> <i>Ranunculus</i>	カタバミ <i>Oreaster</i>	ヒメスイバ <sup>1</sup> <i>Ranunculus</i>
	シロザ、コアカザ <sup>1</sup> <i>Chenopodium</i>	オランダモミナガサ <sup>1</sup> <i>Ceratostigma</i>	ムラサキカタバミ <i>Oreaster</i>	チドリグサ類 <i>Hydrocotyle</i>	ドクダミ <i>Thlaspi</i>
	ヒュ類 <sup>1</sup> <i>Amaranthus</i>	ノモノスマ、コハコベ <sup>1</sup> <i>Stellaria</i>		ヘビイチゴ <i>Duchesnea</i>	ヤブカクシ <sup>1</sup> <i>Cyperus</i>
	エノキグサ <sup>1</sup> <i>Acalypha</i>	カラクサナズナ <sup>1</sup> <i>Ceratopteris</i>			
	スペリヒュ <i>Portulaca</i>	カラスノエンドウ <sup>1</sup> <i>Vicia</i>			
	ザクロソウ <i>Maltaya</i>	アメリカウロ <i>Geranium</i>			
	コニシキソウ <sup>1</sup> <i>Chenopodiaceae</i>				
シダ類					ワラビ <i>Polypodium</i>
					スギナ <i>Equisetum</i>

細字は転換畑など深刻条件で出現が多い草種、\*は風散布型種子を持つ一年生植物で、群落の永続性が低いもの、#はよつる性植物  
上付き文字は、1キク科、2シソ科、3マメ科、4アブラナ科、5ナデシコ科、6タケ科、7ヒユ科、8ナス科、9トウダイグサ科、10オオバコ科。

【分類】三井化学クロップ＆ライフソリューション株式会社HPより抜粋

- ・難防除雑草：防除の困難な雑草
- ・一年生雑草：一年以内に生活環が完了する雑草
- ・多年生雑草：生育期間が2年以上にわたる雑草

考察

→ 「雑草」の種類や分類は、学術的にも多岐にわたり、  
目的等に応じて、適材適所で適切な対策にアプローチする必要がある。

✓ チガヤ



✓ セイタカラワダチソウ



考察

→ 北九州市においても、上記2種を含め、多種多様な雑草が見られる。